

平成 23 年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）

「地震による津波で被災した一人暮らし高齢者・高齢者世帯の生活再構築のための支援過程の構造化」事業

保健師による 東日本大震災復興支援プロジェクト

— 報告書 —



平成24年3月



主管校

岡山大学

代表者

大学院保健学研究科看護学分野
コミュニティヘルス看護学領域

岡本玲子

はじめに

平成 23（2011）年 3 月 11 日に起こった東北太平洋沖地震に伴う大津波によって失われた多くの尊い命を偲び、謹んで哀悼の意を表します。そして、ご家族やご親族、ご友人をはじめ大切な存在を亡くされた方々に心よりお悔やみ申し上げますとともに、復興に取り組むすべての皆様の日々のご奮闘に深く敬意を表します。

さて、本事業は、津波による被災高齢者の健康生活支援とその支援過程の構造化を主目的とする単年度事業です。事業は大きく 2 つに分かれています。ひとつは、岩手県大槌町からの派遣依頼を受け、一般社団法人全国保健師教育機関協議会等が募集した全国からの保健師による全戸家庭訪問で行った健康生活調査について、その結果集計を大槌町からの依頼によって行い、復興に向けて、健康・生活面の課題の明確化と、保健活動による対応策を提案した事業です。

もうひとつは、被災地の自治体職員や地区組織等関係者と外部から被災地支援に入った保健師、合計百四十数名への面接調査を行い、その分析から「被災地と被災者の理解を深める成果」、「被災者の健康課題と対応方法を検討した成果」、「平時・有事の災害保健活動のあり方を示した成果」を創出した事業です。

一連の過程の中で、成果物としては、本報告書に加え、ホームページを新設するとともに、津波被害を受けた対象や災害保健活動の理解を促進する内容の DVD を作成しました。単年度では、当初目的としていた支援過程の構造化に至るまでの検討が十分にできませんでしたが、それは今後の課題とさせていただきます。

調査票の記載内容や面接時の逐語録を何度も読みながら、残された方々の痛みを深く感じ、亡くなられた方々のご冥福を願い続けています。本事業の成果を、今後の災害支援活動や、平時の地域づくりに少しでも活用していただければ、関係者一同これほど嬉しいことはありません。皆様におかれましては、どうぞご健康に、そしてご安全に日々を送られますよう、ますますのご活躍とご発展を心からお祈り申し上げます。

平成 24 年 3 月 1 日

代表者 岡本玲子



事業の概要

1. 補助金の名称 平成23年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分)
2. 事業区分 区分番号 第2 高齢者保健福祉施策の推進に寄与する調査研究事業
テーマ番号 23 一人暮らし高齢者・高齢者世帯の生活課題と
その支援方策に関する調査研究事業
3. 事業名 地震による津波で被災した一人暮らし高齢者・高齢者世帯の
生活再構築のための支援過程の構造化
4. 事業実施者 主管校： 国立大学法人 岡山大学
主管校事業担当者：岡本玲子（代表）、西田真寿美、小出恵子
調査研究事業担当研究者：次頁の調査研究事業担当研究者一覧を参照

5. 事業実施目的

本事業の目的は、地震による津波で生活の土台を失った被災高齢者が健康を維持し生活を再構築していくために効果的な支援方法を、東日本大震災被災地の実態に基づいて多角的・系統的に明らかにし構造化することである。今年度は東日本大震災で甚大な被害を受けた一自治体における支援活動（事業Ⅰ）と、被災地の自治体職員等および被災地支援を行った保健師等への面接調査の分析（事業Ⅱ）より効果的な支援方法の構造化に向けた基本事項について検討する。

6. 事業内容

- 調査研究事業Ⅰ 地震による津波で被災した高齢者等の健康・生活面の課題分析と
保健活動への提案
- 調査研究事業Ⅱ 地震による津波で被災した高齢者等への支援過程の構造化に向けた
基礎研究

7. 国庫補助所要額 20,550 千円
8. 事業実施期間 平成23年6月から平成24年3月まで

9. 事業の効果及び活用方法

被災した地域住民の健康生活支援および自治体におけるコミュニティ再構築に資する。今後の津波災害に際しての被災者の健康面・生活面の課題の特徴と、それに対する効果的な支援方法を国内外に提供できる。

調査研究事業担当研究者一覧（事業班）

研究代表者

岡山大学大学院保健学研究科 教授 岡本 玲子

研究分担者

岡山大学大学院保健学研究科 教授 西田真寿美
 岡山大学大学院保健学研究科 助教 小出 恵子
 東京大学大学院医学系研究科 教授 村嶋 幸代
 岩手看護短期大学 教授 鈴木るり子
 帝京大学医療技術学部 教授 岸 恵美子
 徳島大学大学院ヘルスバイサイエンス研究部 教授 多田 敏子
 愛媛県立医療技術大学保健科学部 教授 野村美千江
 秋田県立衛生看護学院保健科 主幹兼班長 酒井 陽子
 奈良県立医科大学医学部看護学科 教授 城島 哲子
 神戸市看護大学看護学部 准教授 岩本 里織
 千里金蘭大学看護学部 准教授 草野恵美子
 川崎医療福祉大学医療福祉学部 講師 齋藤 美紀
 東京大学大学院医学系研究科 博士前期課程院生 寺本 千恵

研究協力者・団体

愛媛県心と体の健康センター 相談指導係長(保健師) 佐尾 貴子
 愛媛県今治保健所 担当係長(保健師) 倉田 朋子
 今治市大三島支所 保健師 菅 玲子
 元玉野市保健福祉部健康増進課 元参事(保健師) 皿海 二子
 天使大学大学院看護栄養学研究科 教授 白井 英子
 名寄市立大学保健福祉学部看護学科 教授 播本雅津子
 秋田大学医学部保健学科 講師 熊澤由美子
 秋田県立衛生看護学院保健科 副主幹 佐藤千賀子
 秋田県立衛生看護学院保健科 技師 工藤仁美
 千里金蘭大学看護学部 講師 佐藤 文子
 愛媛県立医療技術大学保健科学部 准教授 田中美延里
 愛媛県立医療技術大学保健科学部 講師 奥田 美恵
 東京大学大学院医学系研究科 講師 永田 智子
 東京大学大学院医学系研究科 助教 有本 梓
 東京大学大学院医学系研究科 助教 田口 敦子
 東京大学大学院医学系研究科 博士前期課程院生 堀越 直子
 東京大学大学院医学系研究科 博士前期課程院生 阪井 万裕
 東京大学大学院医学系研究科 博士前期課程院生 堂本 司
 東京大学大学院医学系研究科 博士前期課程院生 柳瀬 裕貴
 岡山大学大学院保健学研究科 助教 生田由加利
 岡山大学大学院保健学研究科 助教 大浦まり子
 岡山大学大学院保健学研究科 助教 大塚 元美
 岡山大学大学院保健学研究科 博士前期課程院生 茅野 裕美
 岡山大学大学院保健学研究科 博士前期課程院生 長野扶佐美
 岡山大学大学院保健学研究科 博士前期課程院生 馬場わかな
 岡山大学大学院保健学研究科 博士前期課程院生 関 裕子
 岡山大学大学院保健学研究科 博士後期課程院生 合田加代子
 岡山大学大学院保健学研究科 博士後期課程院生 松原三智子
 岡山大学大学院保健学研究科 博士後期課程院生 岡本 里香
 岡山大学大学院保健学研究科 博士後期課程院生 小野 美穂
 岡山大学大学院保健学研究科 博士後期課程院生 福川 京子
 岡山大学医学部保健学科 学部生 栗根由希子
 岡山大学医学部保健学科 学部生 我澤 量子
 岡山大学医学部保健学科 学部生 中川 真希
 徳島大学医学部保健学科 学部生 天羽奈保子
 一般社団法人全国保健師教育機関協議会 東日本大震災復興支援教育・研究プロジェクト

事業の成果

- I 地震による津波で被災した高齢者等の
健康・生活面の課題分析と保健活動への提案

事業の成果

Ⅱ 地震による津波で被災した高齢者等への 支援過程の構造化に向けた基礎研究

調査研究事業Ⅱでは、地震による津波で被災した高齢者等への支援過程の構造化に向けた基礎研究として、「A 被災地と被災者の理解」、「B 被災者の健康課題と対応方法」、「C 平時・有事の災害保健活動のあり方」に着目して成果を創出した。

調査研究事業Ⅰを展開する根拠となった研究成果は A-1、A-2、B-1、B-2、B-3 である。その他の研究成果は、被災地の地区組織等関係者や自治体職員、および外部から被災地支援に入った保健師、合計 143 名への半構成質問紙を用いた面接調査を行い、その逐語録から質的記述的分析を行ったものである。

これらの成果の要約・抜粋は、隣のメニューボタン「被災者理解」「被災者支援」「災害保健活動」「エピソード集」に掲載しています。